

第 2 学 年 進 路 講 演 会

平成 2 2 年 9 月 2 9 日

9 月 2 9 日（水）、黒田哲也先生を講師に迎え、進路講演会を実施しました。黒田先生は小野高校で延べ 2 3 年にわたって教鞭を執られ、そのうち 1 1 年間は進路指導部長をされました。文字通り、小野高校を最もよく知っておられる先生です。また、加古川東高校で 1 3 年、白陵高校でも 1 0 年間教鞭を執られました。

先生には、「小野高校の 2 年生がなすべきこと」をテーマに講演をお願いしました。

I 小野高校とは

広い視野と的確な判断力を持つ社会のリーダーを育てる学校

II 社会が求めるリーダーとは

1. チャレンジ精神のある人（リスクを恐れず、新しいものへの挑戦）
2. 国際感覚のある人（論理的な思考と的確な表現力）
 - ・日本人であるというアイデンティティを持つこと。
 - ・これからの社会は多文化と共生する社会である。
3. 創造力・独創力のある人（基礎力と学び続ける意欲）
4. 人を思いやる心を持つ人

III 2 学年の位置 「花の 1 年、遊びの 2 年、あきらめの 3 年、地獄の 4 年」

1. 学校を中心
 - ・行事には積極的に参加しよう。
2. 中だるみ
 - ・自己管理能力（自律と自制）を身につける。切り替えが大切。
3. 時間的余裕
 - ・「読書」のすすめ—追体験ができるすばらしさが読書にはある。

IV 進路に関する悩み 「学部」から「大学」へ

1. 目標の決定（「なりたい自分」を見つける）
 - ① 自分を見つめる（興味・関心、適性、能力）
 - ② 社会を見つめる（情報化、国際化、高齢化、複合化）
 - ③ 大学に関する情報を集める（大学、学部、学科）
 - ・社会が変われば、大学も変わる。新しい学部がはやっているが、従来の学部で十分。
 - ・教授（論文）・施設の他に、図書館や人脈（歴史・伝統）も調べてみる。
2. 「なりたい自分」と「今の自分」との間のギャップ
 - 「勉強するしかない。やったらできる！」
3. 勉強の仕方

V 学習のアドバイス

1. 目標を持つ — 第一志望を明確に。
2. 生活のリズムを作る — 進路指導は生活指導である。
 - ・習慣づけることが大切。「3 点固定」

3. 授業中心の学習 — 完全に消化する。
4. 予習・授業・復習のサイクルの確立
 - ・ 予習 — 何がわからないのかを見つけ出す。
 - ・ 復習 — その日のうちに先生に質問する。
5. 主体的学習
 - You may take a horse to the water, but you cannot make him drink.
 - 「その気のない者には、はたからどうすることもできない」
6. 基礎力の充実 — センター試験の英単語の80%が中学校の英単語である。
7. 苦手科目の克服 — 大学入試は総合力である。
8. 継続は力なり
 - 「天才には2種類ある。先天的な天才と努力を継続する天才である。努力を継続する天才には誰でもなれる。」
9. スランプの克服 — 「基礎・基本」に立ち戻る。簡単なことをする。
 - 「勉強を続けていると成績は下がらない。」
10. 先生に質問

VI 入試失敗の原因

1. 目標が明確でなかった
2. 生活のリズムがなかった
3. 心に甘えがあった
4. 勉強のスタートが遅れた
5. 基礎学力不足
6. 不得意科目があった

